

大木のりあい号 試験運行の検証

検証方法：運行事業者との協議、利用者アンケート、高齢者アンケート、運行実績など

「大木のりあい号」の周知と利用者登録、利用者数

周知方法：

町広報紙、公式LINE、ホームページ、議会だより、区長会・民生委員・社会福祉協議会への協力案内、高齢者等宅へ配置された防災ラジオ放送

利用者登録数：町内 234 人

参考 65 歳以上人口：4,090 人、75 歳以上：2,322 人、小学生以上 12,821 人)

実利用者数：60 人前後で推移

1日あたり便数：9.2 便 (R7.10~R8.4(運行開始2月を除く))

参考 現在通院に困ってる人：34 人(R6年度福祉課調査)

高齢者アンケート結果の約半数が乗合タクシー事業を知らないと回答。引き続き周知を図っていく必要がある。周知方法については、昨年度同様の方法で行う。(真に移動に困っている人のほとんどが福祉機関と接触の機会があるはずで、そうした人達への周知は概ね図れるもの)

数値目標(町地域公共交通計画)：

乗合タクシーの利用者数

令和7年度：11.08 人/日(1,772 人/年(試験運行を含む運行日数 160 日)) R7.8~R8.3

【実績：9.08 人/日(1,408 人(運行日数 155 日))】



目標数値には達していないが、実利用者数からみて、試験運行前に把握した通院手段に困っている人などの支援策となり得ているものと思われる。利用者が増えれば良いということでもないため、もう少し利用状況を見守り、目標数値の修正も検討する

事業経費

委託料月額：357 千円(最大実績) (事業設計最大月額 660 千円)

1運行当たり経費：1,692 円 (想定 1,990 円)

最大で想定する事業経費(国県の補助金の考慮済)の範囲内であり、今後の利用増を見込んでも事業継続に支障をきたすことはない

利用動向

- ・ 病院を主目的とした利用が多く、買い物、駅・バス停と続く
- ・ 病院の後、徒歩圏内の周辺施設(買い物、銀行など)した利用もみられる
- ・ 電車・バスとの接続機能を果たしている
- ・ 町外者の利用:町外に居住する子の実家訪問の際の利用、企業営業活動にも利用されていると推察される
- ・ のりあい号利用(町内)から引き続き一般タクシー(町外)としての利用も一定程度あり
- ・ 利用時間帯:一定程度の分散傾向といえるが、午前中利用が多い

利用者意見

運行日時: 土日の運行を望む声、早朝、夕方以降の運行を望む声もあり

運賃: 不満の声は少ない

予約方法: 不満の声は少ない

改善検討事項

運行曜日、運行時間の拡大

今後の課題

- ・ 高齢者人口の増加(65 歳以上:2042 年ピーク、75 歳以上 2055 年ピーク)
- ・ 町外への移動(町内に眼科医なし)
- ・ 運行台数の確保

期待される副次的効果

- ・ 現在は必要ないけれども、将来の移動手段に対する不安の軽減、解消に
参考 住民アンケート結果「町内の電車、バスの公共交通環境や、町内の地域間の移動手段環境に満足していますか？」
満足度(R2:38.7%、R3:38.6%、R4:32.9%、R5:34.0%、R6:34.4%、R7:34.5%)
- ・ 移住検討者にとっての加点材料に(西鉄電車、西鉄バス + 乗合タクシー)